

寒冷地形談話会通信

2002年度 1号 [2002年7月1日発行]

<http://www.geo.ees.hokudai.ac.jp/kanreichikei/>

- ◆本格的な梅雨になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。寒冷地形談話会通信 2002年度第1号をお届けします。
- ◆今年度は事務局交代がありました。前事務局の皆様、2年間ありがとうございました。
- ◆今回、引継にあわせて会費納入状況をチェックし、未納がある方には請求書をお送りしました。その際、一部の完納会員や無料送付者(機関等)に請求書をお送りする事態が生じました。事務局の手続き不備によるもので、不快な念を与えてしまい誠に申し訳ございませんでした。今後は、このようなことがないよう、事務局一同気をひきしめて任にあたりたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。
- ◆本号は日本地理学会での総会の様子や、事務局メンバーによる会議録のほか、「夏の学校」や関連学会の情報など、盛りだくさんの内容でお送りします。記事にもあるように、本年度から学部生会員の会費を無料にしました。当会の活動に興味を持ってくれそうな学生さんがいらっしゃったら、ぜひ入会をおすすめ下さい。

編集:佐藤 剛・荻谷愛彦

事務局:佐藤 剛・荻谷愛彦(千葉大)、澤田結基(北海道大)、池田 敦(筑波大)、天井澤曉弘(明治大)、黒田真二郎(都立大)

連絡先:〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 千葉大学大学院自然科学研究科 寒冷地形談話会 代表 荻谷愛彦

gsato@earth2.s.chiba-u.ac.jp または ykariya@earth.s.chiba-u.ac.jp FAX 043-290-3897(荻谷居室)

会費振込:郵便振替 東京 00100-9-171342 寒冷地形談話会

【2002年度総会(2001年度活動報告)】

日本地理学会 2002年度春季大会(日本大)において総会が開かれました(約20名の会員・非会員が参加)。2001年度活動状況が事務局から報告されました。また活動方針等に関する意見が交換され、新事務局が選出されました。

◆現会員 148名(郵送会員 48名、電子メール会員 100名)。大学等 13機関に「寒冷地形談話会通信」を無料送付し、掲出を依頼した。

◆会費完納者は約55%、2年間以下滞納者は約15%、3年以上滞納者は約29%である。

◆寒冷地形談話会通信(郵送版・メール版)を6回発行した。

◆例会は6月(発表:荻谷愛彦, 参加14名)、12月(発表:目代邦康, 福井幸太郎, 石川 守, 青山雅史, 池田 敦, 澤田結基, 天井澤曉裕, 曾根敏雄, 森 淳子, 同23名, 日本地理学会山岳永久凍土研究グループ共催)、2月(発表:佐藤 剛, 渡邊 賢, 久保田充, 吉村章彦, 加藤 譲, 尾方隆幸, 同21名)に行った。

◆「夏の学校」は9月10日~12日、北アルプス蒲田川源流の氷河地形・堆積物を対象に開催した(長谷川裕彦氏案内)。日本地理学会氷河作用研究グループ野外討論会と共催。

◆会計報告

[収入]	536,241
・2000年度繰越金	283,241
・2001年度会費	253,000
[支出]	390,730
・「通信」発送経費	69,480
・文具	17,728

・茶菓代	7,903
・発表者交通費補助	44,400
・その他	5,000

◆新事務局を決定した。総務は千葉大(佐藤・荻谷)とし、明治大(天井澤)、筑波大(池田)、都立大(黒田)、北海道大(澤田)が加わった合同体制での運営が提案され、了承された。

◆今年度も年3回程度の通常例会を開催し、必要に応じ臨時例会を開く方針を確認した。また「例会を夏休みに開催してほしい」との要望があったことが報告され、今後できる限り意に沿えるよう努力することを確認した。

◆「夏の学校」は氷河作用研究グループとの共催で、8月下旬に立山か白馬岳で開催する(修正あり→後述)。

◆地学雑誌「氷河・山岳永久凍土特別号」編集委員から、関係者の積極的投稿が要請された。

◆設立31周年に入っているので、記念行事を開いたらどうかとの意見が出された。その際、「百名山の自然学(古今書院)」の出版記念行事と同時開催したらどうかとの提案があった。これらは、今後事務局を中心にして検討する。

【2002年度第1回事務局会議】

2002年度活動方針を検討するため、4月27日に事務局メンバー会議を開きました(明治大;出席者は新事務局メンバー;澤田のみ資料報告)。

[報告事項]

1)会務全般(天井澤)

・談話会通信発行状況と、例会および巡検

2001年度の状況を再報告した。発表者の要旨提出が遅れ

がちで、編集作業がしばしば滞った。最近の「夏の学校」は参加者が少ない。開催期(8月下旬～)が野外調査時期と重なることが理由に考えられる。

・会員名簿

会員消息の把握に苦労した。現況確認ハガキは未返送のものも多かった。2000・2001年度とも名簿は配布しなかった。

2) 会計報告(天井澤)

・2001年度決算

総会での報告額を訂正(上記金額は修正済み額)。2001年度収入は例年より多かった。会費滞納者に例年より強く請求した結果と思われる。会費未納率を再報告した。

3) メーリングリスト(ML)管理(黒田)

MLは都立大のサーバを利用し、福井幸太郎氏の協力で管理している。当面は現体制を維持できるが、将来は民間サーバに移転するのがよい。これは、ML管理者交代時の引き継ぎの簡素化にも寄与する。

4) web site 管理(澤田)

配付資料によりサイトの Contents 案が報告された。

[審議事項]

1) 会計・口座・名簿管理

・会計、口座および名簿管理は同一担当者が行うのが望ましい。新担当者への前事務局(明治大)からの引継ぎを迅速に行い、取引郵便局も新担当者の近隣局に移す。2002年度は名簿を配布する。メール会員にはメールで住所・所属変更の有無を確認する。以上、千葉大担当。

2) 会費未納者の取扱い

1997年以前の資料が散逸しているため、これ以前の会費未納は時効とする。未納者には再督促し、なお未納の場合は除名する(3年以上未納者)。督促状は千葉大で作成する。督促状・振込用紙の送付と未納金の会計処理は千葉大で行う。未納会員がメール会員の場合はメールで告知する。いずれも納期限は6月末とする。

3) 寒冷地形談話会通信および ML 上の配信

「寒冷地形談話会通信」文案は千葉大で作成し、印刷・発送は筑波大で行う。印刷・発送は廉価で委託可能な場合は業者外注も考える。これについて筑波大で情報収集し、再検討することにした。MLは都立大で管理する。都立大はMLサーバ移転を前提に費用等の情報を集め、今後検討する。また会費納入者の優位性を保つためにも会費納入会員に限定してML配信することを再確認した。

4) web site および電子掲示板管理

サイトのデザイン作成とサーバ管理は北海道大で行う。サイトの Contents は原則として会員自主投稿制(事務局などでの依頼稿にしない)にする。現在、サイトにリンクしている「寒冷地形談話会通信」は、今後会員以外閲覧できないようにする。サイトの内容は今後も継続的に検討する。

5) 2002年度活動計画

・例会日程と話題提供者

例会は2回以上開催する。初回は2002年12月(博士論文発表会)、2回目は2003年2月(卒論・修論発表会)とする。申告や推薦があれば随時開催する。

・夏の学校

第四紀学会との関係で日程変更の可能性が大である。・創立30周年記念行事

設立当時の会員に講演依頼できないか検討する。記念行事は11月ごろ都心で行うのがよい。簡単なパーティも開催できないか検討する。

・新規会員獲得にむけて

入会促進のため、今年度から学部生会費を免除とする。宣伝ポスターを作成し、関係機関等に配布する。ポスター作成担当は都立大とする。

【2002年度 夏の学校のご案内 (第1報)】

白馬岳周辺の氷河堆積物と第四系を対象に、10月25日(金)～27日(日)に「夏の学校」を開きます。

◆見学予定地は次のとおりです。25日:神城盆地の最新氷期の湖沼氾濫原堆積物、神城断層(半日オブション巡検)。26日:松川北股入(岩岳、赤倉沢、長走沢など)の地形・堆積物。27日:大所川と稗田山の地形・堆積物。ティルの認定には何が重要か?、ティルと他の成因による堆積物との区別は可能か?、白馬岳周辺の古環境はどこまで解明されたか?、などを議論したいと思います。日本地理学会氷河作用研究グループ巡検と共催にします。

◆案内者は長谷川裕彦・佐藤 剛・荻谷愛彦氏の予定。

◆準備の都合のため、参加を希望される方は、氏名・連絡先(メールか FAX)・参加可能日・自家用車提供意志の有無、その他特記事項(飛行機便の都合など)を記入して、事務局にメールか FAX でお知らせ下さい(ひとまず8月末期限とします)。続報は ML 等で流しますが、第2報以降を確実にお送りするのは上記情報を送信された方のみとします。現時点では、2泊とも民宿(1泊2食7000円～)等に投宿の予定です。

【通信・メーリングリストへの投稿募集中】

寒冷地形談話会 ML や web site をどんどん活用して下さい。Site を飾る写真なども募集中です。

◆会員への情報提供や、情報収集には ML の活用が有効です。メール会員に登録すると誰でも ML へ投稿でき、メンバーからの投稿も受信できます。会費も年間500円お得です。巡検・集会案内、新刊紹介、露頭や海外の情報、公募情報、会員および事務局への意見など何でも結構です。なお、システムの性質上、添付ファイルは使えません。もちろん、従来どおり「寒冷地形談話会通信(郵送版)」への投稿も大歓迎です。

◆当会は公式 web site を開設しています。URL は、

<http://www.geo.ees.hokudai.ac.jp/kanreichikei/>

です。管理は事務局(北海道大)で行っていますが、内容は会員からの投稿にもとづき更新されます。web は会員以外も閲覧できるメリットを活かし、ML 以外に広く宣伝したい記事・話題の投稿をお待ちしています。文章はプレーン・テキスト形式(.txt)で、画像は圧縮した.gif や.jpg で担当者(澤田: jury@ees.hokudai.ac.jp)にお送り下さい。ただし担当者の長期調査などで更新が遅れることもあります。ご了承下さい。

【ポスター用写真募集中】

関係機関に送付する広報ポスターを制作中です。紙面を

飾る写真をどしどしお寄せ下さい。

◆デジカメは 200 万画素以上, 紙プリントは 200~300 DPI, ポジ・フィルムは 1200 DPI 程度でスキャンしたものを jpg や gif 形式にして, 担当者(黒田:kan-ml_admin@mitoo.geog.metro-u.ac.jp)まで添付ファイルでお送りください。紙焼きやスライドは送らないで下さい。採用は事務局にご一任下さい。

【各種会議・新刊書などのお知らせ】

◆日本第四紀学会大会は 8 月 23 - 26 日に信州大学・松本キャンパスで。発表受付終了。シンポジウムや普及講演会, 野外見学会(上高地など 3 コース)あり。詳細は同学会 NL「第四紀通信」や HP (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/>) を。

◆歴史地震研究会集会は 9 月 7 - 9 日に立山で。発表申込終了。巡検(立山カルデラや跡津川断層など)あり。集会や巡検への申込は 8 月 15 日締切。詳細は HP (http://sk01.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/public_html/Shiryuu.html) を。

◆日本地理学会大会は 9 月 26 - 28 日に金沢大学で。各種巡検や国際山岳年関連シンポジウムあり。予稿集版下は 7 月 11 日学会必着。詳細は HP (http://wwwsoc.nii.ac.jp/ajg/home_J.html) を。白山などでの巡検は同大学・青木賢人氏(kentao.ki@kenroku.kanazawa-u.ac.jp)まで。

◆日本地形学連合大会は雲南省地理研究所との共催により, 11 月 17 - 23 日に中国・昆明市教育ホテルで。巡検(士林, 石林など)あり。発表申込締切は 8 月 31 日。詳細は HP (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jgu/homej.html>) で。

◆国際永久凍土学会 IPA 会議は 2003 年 7 月 21 - 25 日に Zurich, Swiss で。発表申込終了。詳細は HP (<http://www.geo.unizh.ch:8080/icop/main.jsp>) を。

◆国際第四紀学会 INQUA 会議が 2003 年 7 月 23 - 31 日に, Reno, Nevada, USA で。山岳氷河やローレタイド氷床に関するプレ・ポスト巡検あり。登録や各種締切の詳細は HP (<http://inqua.nlh.no/congress/congress.html>) で。

◆地学雑誌「氷河作用・山岳永久凍土特別号」は 8 月刊行予定。詳細は HP (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/tokyogeo/index.html>) に掲載予定。

◆5 万分の 1 地質図「白馬岳」(産業技術総合研究所; 旧地質調査所)は近日刊行予定。図 1 葉と A4 解説書付き。価格未定。詳細は HP (<http://www.gsj.go.jp/HomePageJP.html>) に掲載予定。

◆古今書院(<http://www.kokon.co.jp>)の近刊は, 「日本の地形レッドデータブック第 2 集 保存すべき地形(小泉武栄・青木賢人編)」5200 円, 「景観の分析と保護のための地生態学入門(横山秀司編)」3200 円, 「新版 山の高さ(鈴木弘道著)」2600 円。また「百名山の自然学(清水長正編)」も近日刊行。東京大学出版会(<http://www.utp.or.jp/>)は, 「自然災害と防災の科学(水谷武司)」, 「活断層詳細デジタルマップ(中田 高・今泉俊文編)」など。

【新会員募集中】

今年度から学部生以下の会員年会費(電子メール)を無料にしました。

◆新規加入申込は, 1) 氏名・所属校, 2) 連絡先(自宅・学校), 3) ML 送信先のメール・アドレス, 4) 興味を持っている分野や地域, を記入した電子メールまたは FAX を事務局主管(千葉大)にお送り下さい。

【編集雑記】

新事務局メンバーの紹介です。

◇ 天井澤 暁裕(あまいざわ あきひろ)

会場担当。73 年新潟県生まれ。北海道育ち。明治大学大学院文学研究科地理学専攻博士後期課程 3 年。中学の時に宗谷丘陵や礼文島の景観に感動し, 寒冷地形に興味をもちました。卒論・修論では根室半島のアースハンモックを調査し, 今も継続中です。現在, 石狩川源流や大雪山の古環境を調査中です。皆様が集まりやすい会場確保を心がけてお手伝いいたします。宜しく願います。(amaizawa@kisc.meiji.ac.jp)

◇ 澤田 結基(さわだ ゆうき)

HP 担当。75 年生まれ。広島育ち。明治大学文学部卒業後, 北海道大学大学院地球環境科学研究科進学。同博士課程 3 年。身内が沖繩に縁が深いためか, 気づくと極端な北方指向になっていました。半年間の自転車旅行でアラスカ・極北カナダを走り回るうちに永久凍土に興味を持ち, 現在東大雪, 然別湖周辺で岩塊斜面の点位的永久凍土を研究しています。HP へのご要望・ご感想をお待ちしています。(jury@ees.hokudai.ac.jp)

◇ 池田 敦(いけだ あつし)

通信担当。76 年生まれ。神奈川県出身。筑波大学大学院地球科学研究科一貫制博士課程 5 年。筑波大入学時にワングルに入部し, 山好きになりました。山をフィールドにした研究ができるということで地形学を選び, 卒論より現在までスイス・アルプスで岩石氷河の研究を行っています。とくに現在, 岩石氷河の運動に温度変化が及ぼす影響を調べています。微力ながら談話会のお役に立てれば幸いです。(aikeda@atm.geo.tsukuba.ac.jp)

◇ 黒田真二郎(くろだ しんじろう)

ML 担当。東京都立大学理学研究科地理科学専攻修士課程。高校生の時から山に登り, 山の自然に興味を持ってきました。都立大では白馬岳の周氷河砂礫斜面・残雪砂礫斜面をフィールドに, 斜面の形がどう変化してきたのか? という研究課題にとりかかっています。(kuroda_s@mitoo.geog.metro-u.ac.jp)

◇ 佐藤 剛(さとう ごう)

総務担当。75 年生まれ。いわき市育ち。千葉大学大学院自然科学研究科人間・地球環境科学専攻博士後期課程 1 年。山地斜面の地形発達に興味があります。卒論では仙台近郊の丘陵地谷底部の微地形変化を, 谷底堆積物量の計測と土砂堆積プロセスの復元から明らかにしました。現在, 飛騨山脈北部の地すべり地形発達過程を調査中です。調査地には氷成堆積物と地すべり堆積物の双方が分布しており, 両者を区別する手法の確立も研究のテーマです。事務全般を通じて会運営をお手伝いさせていただきます。どうぞ宜しくお願いします。(gsato@earth2.s.chiba-u.ac.jp)

◇ 荻谷 愛彦(かりや よしひこ)

番頭。10 年ぶりの事務局。事務引継を手伝ってくれた吉村章彦君(千葉大)に, この場を借りてお礼申し上げます。